

## 数学検定(3月3日(土))

7名の生徒が数学検定にチャレンジしました。日頃の学習の成果を試す機会として、60分間のテストに取り組みました。



## 夢講演会(3月9日(金))

舞鶴引揚記念館 学芸員 小川はる菜さんに来校していただき、夢講演会を行いました。小川さんから「学芸員はどんなことをするか知ってる人はいますか?」の問いに対して知っていた生徒が数名いました。小川さんは、小学生の時に会った学芸員さんとの出会いから学芸員という仕事を知ったこと、大学生時代、舞鶴の引揚やシベリア抑留について調べたことなど、学芸員の仕事以外のことも語っていただきました。



【生徒の感想より】

- 学芸員の数が全国的に見ても少ないことに驚いた。また国家資格がいるとは知らなかった。
- 展覧会では、世界に一つしかない貴重な品を扱うので毎回たいへん緊張したり、わかりやすい展示を心がけ常に工夫したりするということをきいて、簡単にできる仕事ではないことがわかった。
- 小川さんが「何事もまずやってみる。」という気持ちで頑張ってくれたこと、「みなさんもいろいろなことにチャレンジしてください。」とってもらって、これから何事にも挑戦してみようと思います。

## 4月の行事予定



- 3日(火) 離任式9:00 通常登校
  - 4日(水) 着任式9:00 通常登校 机却移動
  - 6日(金) 始業式 入学式準備 給食あり
  - 9日(月) 入学式 給食なし
  - 11日(水) 1年生京都府学力診断テスト  
ノ一部活テイ
  - 17日(火) 3年全国学力学習状況調査
  - 18日(水) 校区教職員研修会 ノ一部活テイ
  - 19日(木) 中学校教職員研究会 給食なし
  - 22日(日) 登校日(授業参観、PTA総会)
  - 23日(月) 振替休日(22日の分)
  - 24日(火) 家庭訪問(~27日(金))
- ※3年生は5月1日(火)まで



## 第7回卒業証書授与式(3月15日(木))

暖かい日差しに包まれて、3年生27名が加佐中学校を卒業しました。一人一人が中学校での学びや思い出を胸にそれぞれの進路に向かって、また新たなスタートを切り、歩みははじめました。卒業生の合唱「友」に仲間と支え合い過ごした日々を重ね、たいへん感慨深い合唱となりました。卒業生の今後の活躍を祈っています。(下に答辞を掲載しています。)



## 答辞

冬の名残の雪もようやく消え、加佐の地にも春の訪れを感じられるようになりました。このよき日に、たくさんの方々に見守られ、僕たちは旅立ちの日を迎えました。

三年前、僕たちは新しく大きな制服を身にまとい、この加佐中学校の校門をくぐりました。仲間も増え、期待と不安が入り混じったような感情だったことは今でも覚えています。

一年生の頃のクラスは元気にあふれていました。しかし、元気の良さは、幼さの表れでもあり、深く考えない言動にもつながりました。学校に来られない生徒も出てくるなど課題も多かったです。

二年生になってからは、先生方から「後輩ができたのだから、後輩の手本となるように」と、よく言われました。

【3月号の訂正】 次年度PTA本部役員と春季休業期間の2か所訂正します。

次年度PTA本部役員 会長:眞下 和徳 様、副会長:佐藤 治 様、田中 三佳 様、庶務:武田 真一 様、会計:橋垣 美穂 様

3月の予定 春季休業3月24日(土)~4月5日(木) ご確認ください。

しかし僕たちは、中学校生活への慣れから気が緩み、私語が多くなったり、悪ふざけをしたりし、先生に叱られることも増えてしまいました。

そんな僕らも部活動では三年生が引退したあと、部活動の中心とならなければなりませんでした。それまで気が緩んでいた僕たちに、下級生がすぐについてきてくれる訳などありません。だから一年生を含め、チームをまとめるのに大変な苦勞しました。

文化祭での合唱コンクールでも、クラスが一体になれなかった僕は一年生に負けてしまいました。上級生として悔しい気持ちのまま二年生が終わってしまいました。

最高学年となった今年、全校をまとめなくてはいいけない責任感をひしひしと感じていました。

体育祭では、全校のリーダー

となるので、夏休み返上で頑張ってきました。自分たちの指示通り上手くいかないことや、教え方などたくさん課題をかかえながら頑張っていました。正直、本番直前で成功するのか心配は残っていました。しかし、当日は夏休みからの努力も実を結び全校生徒が団結し、最高の体育祭となりました。

文化祭の合唱コンクールには「今年こそ」という意気込みで臨みました。しかし、最初は声も小さく下を向いている人も多く最優秀賞には程遠い状況でした。でもひとつひとつのことから直していき、乗り越えるたびに自信へと変化していきました。本番では僕たちは最高の合唱ができました。結果も最優秀賞。クラスが一体となり、かけがえない思い出となりました。

文化祭を終え、僕たちは自

分たちの成長を実感していました。しかし、受験というものに対しては、まだ、弱さや甘えがありました。受験生という自覚はあるものの、向き合うことができず、動き出せずにいたように思います。しかし、クラスの中で一人、二人、三人、と走り出すひとが少しずつ増えていき、頑張る姿に刺激を受けた人が広がっていきました。早くに進路が決まった仲間もできましたが、「受験は団体戦」ということを意識し、教え合い、学び合うことが活発になりました。

全員の受験が終わるまで全力で支えることができるまでに成長できたと思います。ここまで成長できたのはたくさんの方の支えがあったからです。

校長先生を始め、加佐中学校の先生方、今日まで色々な

面で助けて下さり、ありがとうございます。特に、三年生になった今年は、たくさんの心配をおかけしました。それでも見放さず、支えて下さってくださったおかげでここまでできることができました。副担任の高橋先生。先生には進路にかかわり、たくさんのご指導をいただきました。そして、三年間担任をしてくださった足立先生。悪いことがあれば叱ってくださり、良いことがあれば一緒に喜んでくださいました。そのおかげでここまで成長出来ました。ありがとうございます。

また、お父さん、お母さんいつも僕たちを支えてくださりありがとうございます。時には、当たってしまいうこともありました。精神的にはいっつも支えられてきました。ここまで育ててくれた家族には心の底から感謝しています。

まだまだお世話になることあると思いますが、本当にありがとうございます。在校生の皆さん。僕たちは部活でも日々の学校生活でも最後まで頼りない先輩だったかもしれない。でもそんな僕らについてきてくれてありがとう。これから、一年生には後輩ができ、二年生は最高学年になります。先輩として迷ったりするかもしれません。しかし確かな答えなんてないので自信をもって進んでいってください。そして今まで以上の加佐中学校にして下さい。

いよいよ別れの時です。これから僕たち二十七名は加佐中学校を卒業し、それぞれの道を歩んでいきます。この加佐中学校は僕らにとってとても大切な場所でした。加佐中学校で過ごした三年間は僕らのこれからの道をつくる糧となるでしょう。

最後に先生方、家族そして一緒に学んできた友に向けて、友へ旅立ちの時々を歌います。進む道の先にどんなことが待っていて、僕らをつなぐこの歌を思い出して、自分たちの手で切り開いていくことを誓って歌います。

平成三十年 三月十五日

卒業生代表 飯田

